



「YouTube」kamaro7777氏の投稿動画より。飛行中のオスプレイ機がバランスを崩し墜落した状況がよく見て取れる。

オスプレイ配備は撤回せよ

構造上の重大欠陥を赤嶺議員が指摘

普天間
米軍基地



日本共産党の赤嶺政賢議員は8月8日の衆院予算委員会で、米海兵隊普天間基地への配備がねらわれている垂直離着陸機MV22オスプレイがもつ構造上の重大欠陥を指摘し、配備計画の中止と同基地の無条件撤去を迫りました。質問の要旨を紹介します。

他機種に比べて事故率が低い（北沢防衛相）
開発中、空軍などで起きた事故を除外した数字だ（赤嶺議員）

オスプレイは開発過程で4回の墜落事故を起こし、2005年の量産開始後もアフガニスタンでの墜落（10年4月）など事故をくり返しています。赤嶺議員がこの事実を示して迫り、墜落は機体の特性による可能性があると指摘しました。

での墜落事故などが計算に入っていない。アフガンの事故報告書は、要因の一つにエンジン出力の低下をあげている。なぜ、起きた事故を除外して「事故率が低い」「安全」などというのか。

●赤嶺議員 事故が繰り返していることをどう認識しているのか。

○北沢俊美防衛相 事故率は他機種に比べ低い。

●赤嶺議員（事故率には）開発途中の事故で30人が死亡したことや、空軍のアフガニスタン

致命的な欠陥がある。配備すすめるつもりか（赤嶺議員）
エンジン停止の訓練をしていると聞いている。信頼したい（松本外務相）

○北沢防衛相 米軍は安全かつ性能の高いものを配備して危険性を除去しようという意図のもとにやっていると認識している。

●赤嶺議員 起きた事故さえ計算に入れないから事故率が低い。アメリカに言われたら、それをそのまま沖縄に返している。質問に答えてない。

赤嶺議員は、飛行中にエンジンが停止しても安全に着陸できるオートローテーション機能の欠陥という致命的な欠陥があることを追及。「機能が十分にある」とごまかす北沢防衛相に対し、二つの事実をあげて反論しました。一つは、米国のタイム誌（07年10月）の特集で、米軍内部文書をもとに、オスプレイのオートローテーション機能が断念されたと報じていたことです。もう一つは開発にかかわったリポロ主席分析官が、オートローテーションの試験は「無残に失敗」と指摘していることです。

●赤嶺議員 構造上の欠陥は解決されないまま配備がすすめられているのではないか。

○松本剛明外相 シミュレーター（模擬訓練装置）を用いて、二つのエンジンが停止した訓練をしていると、米側から説明を受けている。確認しつつも信頼したい。

普天間から辺野古に移せば沖縄の負担軽減になる（菅首相）
答弁は米国のおうむ返し。普天間基地は撤去以外にない（赤嶺議員）

ことは危険きわまりない。辺野古を埋めたてる案も県民が受け入れる余地はない。普天間基地を受け入れる場所などないことははっきりした。

○菅直人首相 普天間に比べて、辺野古は密集地域でもないし、トータルで見れば負担軽減になる。

米側の言い分をおうむ返しに繰り返す政府に対して赤嶺議員は、普天間基地のCH53Dヘリが沖縄国際大学に墜落した事件のあと、日米両国政府が「ヘリは緊急の際にもオートローテーションによって飛行場内に帰還できる」とし、飛行経路を変えなかったことを指摘。「オートローテーション機能さえ持たないオスプレイが墜落する危険がある」と批判し、オスプレイの配備撤回、普天間基地は撤去すべきと求めました。

●赤嶺議員 危険な基地にオスプレイを配備する

●赤嶺議員 人の少ない辺野古というのは米国が言いだしたことだ。答弁はすべて米国のおうむ返しだ。辺野古には絶対つくれないし、普天間は撤去以外にない。

解説：オートローテーション機能 ヘリなどの回転翼機で、エンジンが停止しても、空気の流れをいかにして回転翼を回し、安全に着陸する機能。

